

## 令和3年度からの納付に備えて… 村の税金等は 口座振替で納付しませんか？

役場での申し込み

場所▼税務課、住民課、高齢福祉課(役場行政棟1階)

利用可能な金融機関▼▽常陽銀行  
▽筑波銀行  
▽水戸信用金庫  
▽茨城県信用組合  
▽中央労働金庫  
▽ゆうちょ銀行

持ち物▼▽金融機関のキャッシュカード(暗証番号の入力あり)  
▽本人確認ができるもの(運転免許証、健康保険証など)



金融機関での申し込み

場所▼下記の村内の金融機関の窓口 ※申込書は金融機関に備え付けてあります。

利用可能な金融機関▼▽常陽銀行  
▽筑波銀行  
▽水戸信用金庫  
▽茨城県信用組合  
▽中央労働金庫  
▽常陸農業協同組合  
▽ゆうちょ銀行(簡易郵便局を除く)

持ち物▼▽通帳  
▽金融機関の届け出印  
▽納税通知書

※▽固定資産税・都市計画税、軽自動車税、村・県民税、国民健康保険税、介護保険料、後期高齢者医療保険料が対象です。▽役場窓口は各納期限の2週間前まで、金融機関は各納期限の1か月前までに申し込みください。▽残高不足等により、口座振替ができない場合は、別途納付書を送付します。▽納期限を過ぎた税については、口座振替できません。

ふるさと歴訪

歴史を再発見

## 竹瓦地区にみる先人の知恵

村内にお住まいの皆さんは、「ただ今より、竹瓦橋を通行止めになります」というアナウンスを一度は聞いたことがあると思います。

竹瓦橋は「潜り橋」です。久慈川が増水すると水面下に潜ってしまいます。流木などが引っかけたて橋を壊さないように欄干を設けていない橋なのですが、これは先人の知恵の証です。ちなみに四十川には同じ機能を持つ沈下橋があり有名ですが、こちらは昭和30年代以降に造られたものです。しかし竹瓦橋は、今からおおよそ120年前の明治31(1898)年に造られた記録があります。

竹瓦地区は、今からおおよそ50年前まで、「マエドテ」「ウシロドテ」と呼ばれる土手に囲まれていました。これは内水氾濫などによる大水や久慈川の増水(「カアマシ」)から集落を守るために造られた「囲堤」です。この囲堤は、かつて久慈川が竹瓦地区の西で大きく蛇行し、石神城の崖下を流れていた頃に造られたと考えられます。

竹瓦の文化的景観の調査を行い、村の新たな魅力を



【竹瓦橋と道標】

※「とうかいまるごと博物館事業」は、村内に既存する文化財や遺跡、自然、景観などを現地展示物と見なし、東海村全体を「屋根のない博物館」に見立てるものです。単なる資料見学だけでなく、体験を伴った博物館活動(教育・普及活動)を展開します。

東海村文化財保護審議会委員

宮田 裕紀枝

発見しようと活動をしている「水辺のムラ研究会」が、平成29・30年度に調査した際に発見した「竹瓦郵反別繪圖」(1843年)には、竹瓦橋や堤(「ドテ」)が描かれており、江戸時代後期にはすでに造られていたと考えられます。これらは現在でも見ることができ、先人の知恵や江戸時代の風景に思いをはせることができます。

村で行っている「とうかいまるごと博物館事業」は、7月24日(土)に開館する「歴史と未来の交流館」を核として、今後さらに展開していきます。竹瓦地区の見学会も予定していますので、ぜひご参加ください。「日本遺産」ならぬ「東海遺産」を歩き、見て、竹瓦橋の歴史などから、先人の知恵を感じてほしいと思います。